

第3回三重県地方創生会議概要

1 開催日時：平成27年9月10日（木） 13:30～15:30

2 開催場所：三重地方自治労働文化センター 4階 大会議室

3 議事概要：以下のとおり

1 開会（三重県知事 挨拶）

- ・一次産業関係者の意見をお伺いするために、新たに、青木様、川井様、服部様の3名の方に委員にご就任いただいた。委員をお引き受けいただいたことに、改めて御礼を申し上げる。
- ・本日もご説明させていただく人口ビジョンと総合戦略は、今回皆様からいただくご意見や、県議会のご意見を踏まえて一旦策定することになるが、年度末までに、予算議論を踏まえて取組内容を充実させた改訂版を策定する予定である。
- ・本日もいただくご意見のうち、すぐに対応できるものは10月の策定までに反映させ、中長期的なものは年度末までに策定する改訂版への反映を検討するなど、しっかりと対応していきたいと考えている。
- ・人口減少に立ち向かっていくにあたり、ホームランになるような処方箋というのはないに等しい。たくさんの政策を編み込んでやっていかなければ、人口減少に立ち向かっていくという地方創生はなし得ないと思う。
- ・その編み込む施策がどのようなものであるかということが重要であるとともに、各地域が本気になって取り組んでいく実行というのも大変重要である。
- ・これから総合戦略に基づいて実行していく際にもご協力をいただきたいと思いますし、実行している様子をみながらご指導いただければと思っています。

2 出席者紹介

今回新たに加わった青木委員（三重県森林組合連合会 代表理事会長）、村田様（三重県農業協同組合中央会 総務企画部 総務課企画課 課長：三重県農業協同組合中央会 常務理事 川井委員の代理出席者）、服部委員（三重県漁業協同組合連合会 管理部・指導部総括参事）から自己紹介

3 資料説明（安井企画課長）

資料1～資料5により説明

4 意見交換

(項目)

- ・「三重県人口ビジョン(仮称)」及び「三重県まち・ひと・しごと創生総合戦略(仮称)」の最終案について
- ・まち・ひと・しごと創生の推進について

各委員から出された意見の概要は以下のとおり。

(最終案全体に対する意見)

- ・総合戦略はインパクトの弱さがあるが、課題を的確に認識し、打つべきものはひたすら打つということをやっており、凄くよく出来ていると思う。
- ・地方創生の分野を研究していて、わかっていることは、ホームランの処方箋はないけれども、ヒットやバントはある。コツコツといろいろなものやっけていくことが長い目で見たときに、人口減少対策になるということで、これを着実に進めることが必要だと改めて思った。
- ・地方創生にホームランとなる施策はないのだろうと思うが、やはり重点施策はあってしかるべきではないか。重点施策には予算を大きく割いて、緩急をつけるべきだと思う。
- ・一番よかったのは、県独自の視点、攻めの対策、守りの対策、仕事の創出である。
- ・農地についての記述はあるが、林地、漁場という記述がなく、林産、水産に関する書き込みがないので、農林水産業の振興について、もう少し踏み込んだ記述が欲しかった。
- ・サミットの文言が入ったことは非常に大きいことなので、今何ができるか、長期的に何ができるのかを考えていければと思う。
- ・地方創生を、心配事からではなく、夢をもって今よりももっと良くしていこうというように前向きに捉えることが大切である。
- ・幸福実感日本一の県を目指すとするが、もう少し具体的に、どういう点が日本一なのかがあって良い。
- ・防災減災に取り組み、安全安心な地域づくりの視点が必要であり、その内容が「三重県まち・ひと・しごと創生総合戦略(仮称)」最終案の随所に具体的に記載されていて評価している。

(自然減対策に対する意見)

- ・子どものことに関しての支援や方針はすごくたくさん込められていて、私も子どもを育てている身としては、すごくいいなと思った。
- ・企業と地域とそこに住んでいる人たちとコラボして、子育てしやすい三重県

になるといいと思う。

(社会減対策に対する意見)

○全体

- ・若い世代がそこに留まる、またはUターンで戻ってくるためには、家族とのつながりや地元とのつながりなどを大事にしなければいけない。
- ・自分が住んでいる地域を愛するためには、データをみながら自分が住んでいる地域を把握することが必要である。
- ・三重県は、非常に海岸が長くて、震災によるリスクは非常に高い県であるから、これを何とかしなければ、選ばれる三重県にはならないのではないかと。

○学ぶ

- ・大学等進学時の県外流出を止めるためには、県内の高等教育機関を充実させることが必要だが、希望しなければ行かないため、まずは魅力を高めることが重要である。
- ・工業高校の専攻科の設置は、北勢地域に限定する必要があるのか。南部地域に設置すれば、人の移動に影響を及ぼすのではないかと。
- ・高等教育コンソーシアム三重（仮称）に非常に期待している。スケールメリットを生かして単位互換や研究者、学生同士の交流等を行い、三重県全体をキャンパスにすることによって県内に留まってもらえるのではないかと。
- ・いつ頃どこで、どんな魚がおいしいのかを小中学校の授業で教える取組や、魚のさばき方や調理方法を親子で覚えてもらう取組などをお願いしたい。
- ・地域のために活動している学生や学生団体はたくさんいる。このような学生を、連携の対象とするだけでなく、地域と連携する主体として考えてもらいたい。
- ・この計画を進めていく上で、計画について学生同士で考える機会を持つなど、地方創生自体にもっと学生が関心を持つことが必要だと思う。
- ・本大学の医学部で卒業して2年間出た方を全部集めて、ふるさとの母校に帰ってきてもらう会を開くので、県外に出ていった人を放っておかないで、取り戻す具体的な取組も必要だと思う。
- ・県外からの入学者を県内に留め置くことが大事であり、各市町出身の若い人にその市町に留まってもらい、リーダーとなって活躍していただく体制をとりたいと思っている。

○働く

- ・安心して働くということの実現が非常に重要であるという内容で、計画全体

を総合的に、確実に前進させることで効果もさらに高いものになるのではないか。

- ・若者に県内に定着してもらうために、魅力のある仕事の創出とともに、非正規から正規への転換が可能になることが重要である。
- ・女性の働き方について、三重県では一旦出産を機にやめて、また一段落したのちに再度仕事につきたいと希望される方が多い中、パート労働者になっているという現実があり、希望する方は働き続けられる環境や正社員への登用などが必要だと考えている。
- ・三重県に両親がお住まいで、他県で働いている方が介護を機に三重県に戻ってくることを想定したときに、そこに働ける環境があるか、働き続けられるか、ということが大切である。
- ・スポーツについて、県内の強い中学生高校生は県外で出て行ってしまいやすいので、県内のある企業が、卒業後に自分達の企業に就職させ、三重県から国体、インターハイに出場させようという取組をしている。選手にとって、現場で生かせるものが何か制度としてあればいいと思う。
- ・どこの県も同じような戦略を打ってくるので、例えば航空宇宙産業やヘルスケア産業など、三重県にはこういう新しい先端的な産業があると筑波の学園都市のようなイメージにすれば、ある程度の産業集積は望めるのではないか。
- ・県内における最低水準で働かれている方々の賃金の底上げを図らなければ、県内に定着することはかなわないはずである。
- ・南部のほうでは集落として成り立たないところもある。やはり地域で働ける場を作るという事が必要に大切だと思う。
- ・若者の雇用対策は大変重要な課題であり、国、県、市町が連携してうまく施策が繋がるように調整させていただきたい。
- ・いわゆる高学歴の人が就職するような場所が県内には無いような気がする。
- ・働くというシーンに様々な産業が記載されているが、若い世代に残ってもらうために1つ1つを訴求していくと、全体としての良いイメージがアピールできるという方向があると思う。
- ・仕事の選択肢が少ないという話があったが、現状は正社員か非正規か、二極化しているところに問題がある。例えば労働時間が短い正社員や転勤のない正社員など、多様な正社員の普及に取り組んでいるが、いろんな働く場の選択肢をもっと増やしていく必要があると思っている。
- ・新規の道路などが開通すると、産業界に大きなインパクトがあり、企業誘致も進みやすくなる。
- ・主体のコラボと施策のコラボが大切。例えば、空き家の利用という記述があるが、空き家プラス空農地をセットで紹介し、そこに働きたい人を呼ぶよう

な施策もセットで行うといい循環が作れるのではないかと思う。

- ・ 集落で農地を守っていきこうというのは今までも続けているが、集落で担い手を育成するという一歩前を出た取組を進めていければ、地域のコミュニティづくりで地域の活性化に繋がると思う。集落の活性化とそのネットワーク化をお願いしたい。
- ・ コンパクトスチールで野菜を作り、その野菜とかいろいろなものを給食センターに運んで、みんなが働く場ができ、輪になってまちづくりができるというなと思った。三重県に給食があるから、三重県に引っ越ししようと、また人がきてくれるのではないかと考えている。
- ・ 参入してくる産業についても、是非BCPや社員教育、外国人労働者に向けた防災減災の意識づけといったようなことも、今後具体的な施策を点検する中で押さえておいていただきたい。

○暮らす

- ・ 住民、企業の暮らしやすさということから、生活コストが安ければ安いほどよい。
- ・ 事業再編に伴って転出を余儀なくされる方も多いが、逆に転入されるケースも多い。その中に、世帯をお持ちの方が単身で来られることが結構ある。都会の方が暮らすためのサービスが充実しているということで奥様が三重県に来たがらないという理由だが、三重でもそういうサービスが受けられるという情報が伝わっていない。戦略的な方法で情報発信を行うことが非常に重要だと思う。
- ・ 世帯を維持していくには、年収300万円というのが一つのボーダーラインだと思う。三重県の南部地域において、正社員ではなく、冬は漁業を、夏には旅館業や農業で働き、いくつかの仕事を合わせて世帯として300万円近く稼げるという就業モデルをメッセージとして発信することにより、ある種のベクトル、幸せが見えてくるのではないか。

(知事)

- ・ 最終案について、概ねご了解いただいたと思っている。修正できるところは、10月に最終版を確定する前に修正したい。
- ・ この総合戦略は5年間かけてやるものなので、メニューはいろいろ入れていくが、実行段階においては、しっかりメリハリをつけ、優先順位をつけてやっていくことが大事だと改めて思った。
- ・ 県民にどう伝わるか、夢を持って今よりもっと良くしていこうという風に伝わるのが大事との意見をいただいた。県民のみなさんの心に届くような配

慮をしっかりとしていきたい。

- ・戻ってきてもらうにしても、定住している人たちにとっても、仕事ということが一番大事で、特に若い世代の働く場が大事だということだった。我々としては、来年度の予算や現在策定している次期行動計画の中でも若者の雇用は大事だと思っているので、しっかりと重点的に取り組めるようにしていきたいと思っている。
- ・地域によってそれぞれ特色があり、その地域性を大事にしていこうという事だった。そういう意味で市町の総合戦略と県の総合戦略が、地域性にも応えていけるような形で、車の両輪となってしっかりとやっていきたい。
- ・これから生まれてくる子ども達や今いる子どもたちが、三重県の未来に対して明るい気持ちを持っていけるような地方創生の総合戦略になるように、引き続きローリングをして改善をし、目標達成していく。この目標の達成も、行政だけでなく、関係団体、県民の皆さん、みんなが達成感を味わっていくことが大事だと思っている。
- ・最近では、労働局さんと一緒にやった障がい者雇用の問題や、まだ道半ばだが、学力についても一定の伸びが見られたとか、そういう達成感を感じながら地方創生をやっていくことが大事だと思う。
- ・サミットという、他の県では書けないものを書くことが出来たので、それをしっかりと活かしていけるような形にしていきたいと思っている。